



**{for}** CODE for  
IBARAKI

拠点 茨城県水戸市

# 水戸市データサロン

身のまわりの課題について考えるために必要なオープンデータを探し、親しむ場

## 【アイデア】

水戸市では数年前より「水戸市オープンデータライブラリ」として行政オープンデータ公開ページを持ち、データも日々充実してきている。さらにこれを活用するため「水戸市データサロン」を提案する。オープンデータ自体をまったく知らない市民や職員が気軽に立ち寄り、データや課題について知識を得て、市民どうしでアイデアを議論できる場の提供を行う。専門家から市民へ一方的に知識を伝達するようなセミナーでは、なかなか実際のアクションにはつながらない。ある意味、何でもありの場として「水戸市データサロン」を提供することで、オープンデータを使った課題解決というような新しい活動を起こす化学反応を引き出すようにしたい。



## 【発案の理由】

2012年の「未来の水戸をつくる市民1万人アンケート」によれば、行政への住民意向が反映されていると感じる市民はわずかに6.7%しかいない。また、地域コミュニティ、町内会・自治会加入率も以前より下がり続け、2016年には61%にまで下落している。「水戸市コミュニティ推進計画」にはオープンデータは含まれていないが、オープンガバメントの基礎をなすものであるため、コミュニティづくりの一環としても認知度を上げて活用する機会をもうけるべきと考えた。

## 【実現の流れ】

Code for Ibarakiメンバーによるコーディネートで行う。開催場所として市役所内会議室もしくは公共施設を利用するので、費用がかからず市民と市役所の距離感を縮める効果も望める。参加者は市民を中心に関心がある方であるならどなたでも参加可能。サロンでは水戸市オープンデータライブラリのデータを可視化してみせるなどデータにふれていただく形で始める。お茶を飲みながら気軽に話ができる雰囲気大切に、気軽に立ち寄れる場所にしていきたい。